弘前大学教育学部附属教育実践総合センター
研究員紀要　第４号（通号第 14 号）：35～46（2006 年３月）

へき地・小規模校における小学校教師を対象とした総合的な学習の時間の意識調査

－小中併置校における現状と課題－

渋川良夫　平川市立葛川小学校

要　旨

青森県のへき地・小規模校における小中併置校では，総合的な学習の時間において外国との国際交流や地域・郷土の素材を生かしたねぷた，えんぶりなどに小中連携で特色ある取り組みが見られる。教科学習の時間においても，交流授業を行い小学校と中学校が授業においても連携している学校もある。しかし，課題としては自然条件などの面で厳しい環境の下におかれていることや，中学生に依存するために小学生のリーダー性が育ちにくいことなどがあげられる。

青森県では，少子化に伴いへき地・小規模校の統廃合化が進んでいるが，小中併置校の特性を生かしながら特色ある活動を行っていく必要がある。

【キーワード】総合的な学習の時間　　へき地・小規模　　小中併置校　　連携

1　はじめに

文部科学省が行った義務教育に関する意識調査[1]によると，総合的な学習の時間について，「とても好き」「まあ好き」と回答した小学生の割合は６０％，中学生では４６．２％となっており，教師の意識調査では，総合的な学習の時間が「とてもよい」「まあよい」と回答した割合は，小学校では５６．６％、中学校では４３．５％と違いがみられた。保護者の意識調査では，総合的な学習の時間が「とてもよい」「まあよい」を合わせると小学校の保護者は７３．２％，中学校の保護者は６２．９％と全体的にみると保護者は肯定的に捉えている。このような，小学校と中学校の教師の意識の違いの背景は，小学校では学級を中心としているのに対して，中学校では教科担任を基にしていることが考えられ，中学校の場合で特に教科時数の確保等が現実的な問題としてあると思われる。

青森県中南地区の小学校の教師を対象とした意識調査[2]では，教師は総合的な学習の時間を好意的に捉えていた。また，平成１６年度のアンケート調査結果[3]から中南地区のへき地・小規模校の小学校における総合的な学習の時間への取り組み状況では，地域・郷土に関するものが多く，特色ある取り組みが見られている。実践上の課題では，「人材・時間・物的な面」や「指導について」等が課題として挙げられている。その問題点を解決するために，教師の協力体制や地域の協力を得るために連絡を密にしていることが分かった。また，学習内

容の工夫をしたり，学習の形態を変えるなどの工夫をしていた。教科等の時間で苦労している点では，複式の指導法についての苦労や理科等の教科学習での苦労があることが分かり，へき地での経験年数も指導の仕方に影響していることが分かった。しかし，へき地・小規模校であっても小学校と中学校が分かれている学校もあれば，小学校と中学校が併置されている学校もあり形態に違いがある。青森県には，へき地・複式・小規模校が１７０校あるが，その中で１２校が小学校と中学校が併置している。

本研究では，青森県のへき地・小規模校の内，小中併置校における総合的な学習の時間の取り組みについて，小学校の教師の意識調査を基にしながら，小中併置校における総合的な学習の時間の現状と課題を検討する。また、本研究においては，へき地・小規模校での併置校の総合的な学習の時間における具体的な実態や詳細を明らかにするために，自由記述調査で行うこととした。これは，小中併置校の総合的な学習の時間の取り組みや苦労は，それ以外のへき地・小規模校の取り組みや苦労とは微妙に異なるものと考えられるからである。

小中併置校は，「総合的な学習の時間の内容，取り組みの苦労，工夫している点，総合的な学習の時間以外の教科での取り組みの苦労，小中併置の取り組みや苦労」で，小中併置校以外の学校と比べると違いがあると思われる。小中併置校と小中併置校以外のへき地・小規模校では，総合的な学習の時間の実践上の課題で，人材・時間・物的な面について問題点があることや教科等において複式授業について苦労していることが共通しているとは考えられる。しかし，小学校と中学校が学校行事等を一緒に行っていることや教育活動などを合同で行っていること等から小中併置校以外のへき地・小規模校と異なり，小中併置校では小学校と中学校が交流や連携を行いながら教育を行っているものと思われる。この研究は，学校統合が進む中でへき地・小規模校の小中併置校の総合的な学習の時間の取り組み方を検討するとともに，より特性を生かした小中併置校の在り方について考察することを目的としている。

2 調査と分析の方法

調査は，２００５年１２月上旬から中旬にかけて質問紙郵送留置法によって行った。質問紙を，青森県のへき地・小規模校の小中併置校１２校の小学校に学級数を考慮しながら校長宛で１～２部ずつ配布し学級担任を中心に回答をお願いした。回収部数は，１８部であり，回収率は，９０％であった。回答者の年代は，２０代３名（全回答者に対する割合１６．７％以下同じ），３０代８名（４４．４％），４０代６名（３３．３％），５０代１名（５．６％）。経験年数では，５年以下３名（１６．７％），６年以上１０年未満４名（２２．２％），１１年以上２０年未満７名（３８．９％），２０年以上４名（２２．２％）。職名では，教諭１７名（９４．４％），講師１名（５．６％）であった。

質問項目は，「総合的な学習の時間の内容と日程」，「総合的な学習の時間で苦労していること」，「苦労していることを解決するために工夫していること」，「総合的な学習の時間以外で苦労していること」，「小中併置校のよさを生かした総合的な学習の時間や教育活動の取り組みや小中併置校で苦労していること」の５項目である。（資料１）すべて自由記

述で求めた。尚，質問紙調査後，補足的に聞き取り調査を行った。

質問項目の１～４までは，昨年度と同じ内容であるが，これは同じ内容でアンケートをとることにより，小中併置校とそれ以外の学校の比較を行うためである。質問項目５は，小中併置校の特徴や課題を見つけ出すため，今年度新たに追加した項目である。

自由記述データの分析については，質問項目ごとに類似の記述を整理し，分類を作成した上で，回答内容の検討を行った。へき地・小規模校の小中併置校以外の学校は平成１６年度の結果を使い比較検討を行った。

3 結果と考察

3－1 総合的な学習の時間についての内容

表１　総合的な学習の時間の内容

項　　目	内　　容
国際理解	○国際交流＜３＞ ○●英語で話そう、英会話を楽しもう＜併置校１１，併置校以外６＞ ●メーン州カムデン・ロックポートとの交流＜２＞ ●国際理解（百人一首大会）＜１＞
情　　報	○●コンピュータの学習＜併置校１，併置校以外１＞ ○パソコンでつくろう＜１＞ ●思い出のアルバムづくり＜２＞
地域・郷土	○●米づくり、収穫祭、常盤野祭　＜併置校２，併置校以外３＞ ○りんご体験学習　＜３＞ ○●学校園の野菜づくり　＜併置校３，併置校以外３＞ ○村をＰＲしよう＜２＞ ○●ねぷたづくり＜併置校１，併置校以外１＞ ○登山囃子＜１＞ ○広船の伝統や文化＜１＞ ○平賀町・青森県のいいところを調べる＜１＞ ●神楽＜１＞ ●牛滝を探検しよう＜１＞ ●伝統芸能（えんぶり・さづま）＜１＞ ●陶芸＜１＞ ●地域を題材にしたアルバムづくり＜１＞ ●ふるさと学習＜べこもち作り＞、郷土料理＜２＞
環境・自然	○もっと知りたい岩木川＜１＞ ○植物採集、バードウオッチング、蝶を採集しよう＜３＞

環境・自然	○森林学習＜１＞ ●雪まつり・かまくら作り＜１＞ ●さけの受精と放流＜１＞ ●菊づくり＜１＞ ●福浦の自然＜１＞ ●緑の少年団活動＜１＞
福　　祉	○車いす、障害者擬似体験、点字について＜１＞ ○●老人ホーム訪問　＜併置校２，併置校以外３＞
児童の興味・関心	○修学旅行、学習発表会　＜３＞ ●　○○博士（国語との関連）＜１＞
その他 ＜全体計画＞	○養護学校との交流　＜１＞ ○わくわくドキドキ探険隊　＜１＞ ○テーマ学習＜１＞ ●一人一研究、未来年表　＜２＞ ●小中合同の全体計画の作成　　＜４＞

●小中併置校　　○小中併置校以外　　＜　　＞は記入数

表１から，「国際理解」において，平川市の小中併置校では，アメリカのメーン州カムデン・ロックポートとの交流を行っており，そこに小中が連携をした取り組みをしている。事前に２～３時間の準備を小中合同で行うとともに，英語の教師による簡単な英会話教室も実施している。全校の児童・生徒を，プレゼント係・出し物係・名刺係に分けるとともに，小中合同で係の仕事を行っている。プレゼント係は，ミサンガ・クッキー・メッセージカードなどのプレゼントを袋に入れる作業を行い，出し物係は，みんなが楽しめるゲームを考えたり，日本とアメリカの国歌をハンドベルの楽器演奏をしている。名刺係は，顔写真入りの簡単な名刺をパソコンで作る作業を行った。中学生が中心になり，小学生に教えたりしながら実施している。

「地域・郷土」では，地域の特色を生かしている学校が多い。小中併置校の場合，地域の素材を生かしながら小学生と中学生が連携をして活動を行っている。その典型例としては，黒石市の小中併置校における「ねぷたづくり」がある。ここでは，ねぷた絵を描く際に小中を３グループに分けて活動している。ねぷた絵を描くグループ，送り絵を描くグループとその他のグループの３つに分けて活動をしている。小さい頃からの経験を生かし，上の学年が下の学年に技を継承して行っている。中学生になった頃は一人前となり主導的役割で力を発揮している。組み立てについては，学校だけではなく地域の人達の力も借りるとともに連携を図りながら活動をしていることが聞き取り調査からわかった。

また，別の例として八戸市の小中併置校では，伝統芸能の「えんぶり・さづま」に取り組んでいる。えんぶりやさづまは，県南地方に伝わる伝統芸能であるが、小学校

ではえんぶりとさづまを行い，中学校ではその活動を継続し発展させる形で駒踊りを行っている。文化祭や運動会などで小中連携をしながら発表を積極的に行っている。こうした活動は地域に根ざした活動であるとともに，文化を継承する役割を果たすと位置づけることができる。

「環境・自然」では，身近な地域の自然を生かした取り組みが見られる。身近な地域の山や川などを題材としている点で，併置校とそれ以外の学校との大きな違いは見られない。しかし，小中併置校では，菊作りに取り組んでいるところもあり，一人一鉢など小中の連携をした合同的な取り組みが見られる。

「福祉」や「児童の興味関心」では，併置校とそれ以外の学校の違いはあまりみられないが，老人ホームを訪問するなど，児童の体験的な活動を重視した取り組みをしている。

「その他」では，小中併置校において一人一研究で年間を通して取り組んでいる学校も見られる。また，「総合的な学習の時間の全体計画」では，４つの学校で連携をしながら全体計画を作成し実践を行っている。それぞれの良さを出しながら，教育課程上に位置づけをしている。

3－2 総合的な学習の時間の実践上の問題点

表２　総合的な学習の時間での実践上の問題点

項　　目	大変な点（苦労している点、悩んでいる点）
調　整　等	○りんご体験学習で，農協の指導員の方に協力してもらっていたが，都合が合わなかったりして，あまり上手にできなかった。＜１＞ ○地域や地域の人材を活用しての活動を多く取り入れているが，学校と指導者校内での授業調整が大変である。＜１＞ ○●関係機関との時間調整が大変である。＜併置校１，併置校以外１＞
時間・人材・物的な面	○福祉の学習をして，車椅子，擬似体験用具がなく借用して行った。＜１＞ ○教材研究の時間が不足している。＜１＞ ○外での活動が多岐にわたる場合，職員の数が足りない。＜１＞ ○図書室に資料がない。＜１＞ ○見学に行く交通手段が少ないため，体験学習の機会が少ない。＜１＞ ○時数的に大変である＜１＞ ●教師の数が不足である。＜２＞ ●資料などが不足している。＜１＞ ●時間のまとめどりがあり，他教科への進度に影響がある。＜１＞

指　　導	○個に対する支援。一人一人の活動に合わせた適切な指導。＜１＞ ○３・４年が複式のため，細かな支援ができない。＜１＞ ●子ども一人一人への課題の持たせ方。＜１＞ ●見通しやねらいがあいまいな時がある。＜１＞
自然条件	○校外で行う場合，天候によって計画が変更せざるを得ない時がある。〈1〉 ○水田までの距離が遠かったこと。＜１＞ ●天候や行事等により，計画的に実施できなかった。＜１＞ ●土砂崩れのために学校田として借りていた水田が使えなくなった。＜１＞ ●スズメバチ，クマ，マムシなど安全面での配慮が難しく計画どおり実施できなかった。＜１＞ ○●畑の草取りや管理　＜併置校１，併置校以外１＞
その他	○調べる力，まとめる力を十分育てられずにいる。＜１＞

●小中併置校　　○小中併置校以外　　＜　　＞は記入数

表２より，「調整等」について，併置校とそれ以外の学校の共通する問題点としては，関係機関との時間調整がうまくいかないことがあげられる。外部講師との打ち合わせや関係機関との時間調整に困難を感じているということがわかる。

「時間・人材・物的な面」について，併置校とそれ以外の学校の共通する問題点としては，教師の数が不足していることや資料が少ない点等があげられる。総合的な学習の時間の活動が多岐にわたるため，より多くの人手が必要となることや事前準備において学校の図書室以外の物も必要となることがあげられる。併置校だけにみられるものとして，総合的な学習の時間がまとめどりになることにより，他の教科にも影響を与えていることが認められる。

「指導」については，併置校とそれ以外の学校では違いが見られた。併置校では，総合的な学習の時間における一人一人の課題の持たせ方や，授業時間における見通しやねらいについての苦労が見られた。それ以外の学校では，個に対する支援を苦労としてあげている。

「自然条件」では，天候や安全面において併置校では特に苦労していることがうかがわれる。これは，小中併置校には５級や４級などのへき地の級が高いところがあり、総合的な学習の時間を行っていく場合に地理的条件で厳しい環境が影響を与えていると考える。

3－3 総合的な学習の時間の実践上の問題点を解決するための工夫

表３　総合的な学習の時間の実践上の問題点を解決するための工夫

項　　目	工　　夫　　点
時間、人材、物的な面での工夫	○父兄や地域の人に協力してもらい，連携を密にして対応している。＜１＞ ○市役所から車椅子３台，社会福祉協議会より体験セットを３セット借用して体験させた。＜１＞ ○教務の先生に手伝ってもらい時数集計をしている。＜１＞ ●学級担任以外の教師の協力を得るようにしている。＜１＞ ●各児童のテーマが丁度，知人が回答できそうなものだったので，コンタクトが取り易いという利点を使っている。＜１＞ ●教師の車に保険をかけ，取材活動につれていく。＜１＞ ●部活動バスの利用。＜１＞
指導の工夫	○少人数を生かした対応を行っている。＜１＞ ○グループ学習をすることで効率化を図った。＜１。 ●中学校とペアを組むことで，中学校の手を借りながら課題に取り組むようにしている。＜１＞ ●全体で行う内容，学年で行う内容と形態を工夫した。＜１＞ ●児童の活動の記録の蓄積。＜１＞ ●活動のまとめさせ方と発表方法の工夫と場の確保。＜１＞ ●細かに計画を立てる。＜１＞ ●保存の方法を考えた。学校の年間計画に合う作物をつくった。＜１＞ ●学校全体で取り組む課題を設定するようにする。＜１＞
その他	○一つ一つの語句をかみくだいて説明したり，意味を考えさせるなどした。子ども向けサイトなどを利用すべきであった。＜１＞ ○交通機関を利用する機会が少ないので，社会体験学習という事で，総合見学の時に，それぞれの目的地まで行き方を自分たちで考えさせた。＜１＞ ●資料集め等は，インターネットや電話のかけ方を指導して，関係の人達に問い合わせるなどした。＜１＞

●小中併置校　　○小中併置校以外　　＜　　＞は記入数

表３から，「時間・人材・物的な面での工夫」では，小中併置校とそれ以外の学校の違いは，小中併置校では取材活動で工夫をしていることや部活動バスを利用しながら活動に取り組んでいることをあげることができる。総合的な学習の時間は施設などの利用が多いため，部活動のバスを利用することなどで児童の活動範囲を広げる努力をしていることがわかる。

「指導の工夫」では，併置校とそれ以外の学校で共通していることは，総合的な学習の時間の能率を上げるために，グループ学習をしたり，全体や学年で行う内容や形

態を工夫することで効率化を図っていることである。また，少人数への対応や細かな計画なども共通している点である。異なる点としては，併置校では，「中学生とペアを組むことで，中学生の手を借りながら課題に取り組む」等，小中の連携を図りながら取り組んでいることである。これは、教師以外の手を借りながら課題解決を行っている一つの方法である。学校全体で取り組む課題を設定するなど，小中全体を考えて課題を設定している学校も見られる。

3－4 総合的な学習の時間以外の教科等の時間で苦労している点

表４　総合的な学習の時間以外の教科等の時間で苦労している点

項　　目	苦　労　し　て　い　る　点
複式についての苦労	○少人数とはいえ，一人一人の能力差や作業時間の開きは大きい。しかも複式である。教材準備等には，時間がかかる。＜１＞ ○４・５年変則複式を担当していて，教材研究，評価等，時間が不足している。＜１＞ ○各学年の人数にばらつきがある。毎年，複式学級の組み合わせが異なり複式における指導計画を変えざるを得ない。＜１＞ ●複式学級であるため，時間の取り方，配分や無駄のない間接指導などが難しい。（２） ●複式の指導では，すべてにおいて大変である。複式は難しい。＜１＞
教科指導の苦労	○●理科の授業が複式になると大変だと感じる。特に，実験が多い単元の時どうしても片方の学年がおろそかになってしまう。一人でも学び続ける子どもを育てる事が複式では，特に必要で大切な事だと感じる。〈併置校１，併置校以外１〉 ●３・４年の担任なので社会・理科の複式が特に大変。外に出る活動や実験などの学習では，どのように展開したらいいのか悩んでいる。＜２＞ ●複式の授業形式における充実した国語学習指導の在り方。＜１＞ ●体育等，チームでの活動がしにくい。＜１＞
その他	○一人一人に確実に基礎的・基本的なことを定着させること。＜１＞ ○子どもの学力を伸ばすために，子どもの実態に即した教材研究に試行錯誤している。＜１＞ ●全校で１０人を切る世界に突入して，学級という組織があるが機能しなくなっている学校を一つの学級に見立てていくような実践を考えなければならない。＜１＞ ●国語科では、教材を学習した後に必ず総合に関連する調べ学習があり、複式でどのように指導計画を立てればよいのか苦労した。＜１＞

●小中併置校　　○小中併置校以外　　＜　　＞は記入数

表４から，「複式についての苦労」を併置校とそれ以外の学校で比べると，併置校では，特に複式の指導についての苦労を挙げているのが特徴である。それ以外の学校では，教材研究の時間や教材準備の時間，指導計画についての苦労を挙げている。

「教科指導の苦労」では，併置校以外の学校では特に，理科の複式の授業で苦労していることがわかる。複式で理科の実験や観察を行うのは大変であることがわかる。とりわけ，安全面からは高学年の場合２つの学年を一緒に行うことは困難を感じているのではなかろうか。併置校では，理科だけでなく社会，国語，体育等の教科にも苦労があることがわかる。体育などでは人数が少ないためにチームができにくく大変なことがわかる。また、国語などでは，話し合いが深まらずに充実感を得ることが困難な面がみられる。

「その他」では，国語科において、教材を学習した後に総合に関連する調べ学習があり，複式での指導計画を立案に苦労したなどが挙げられている。教科学習と総合的な学習を関連させて調べ学習を計画することが，とりわけ複式において難しい点となることがうかがえる。

3―5　小中併置校のよさを生かした取り組みや苦労している点

表５　小中併置校のよさを生かした取り組みや苦労している点

項　　目	よさを生かした取り組みや苦労している点
＜よさを生かした点＞	
・９年間一貫教育	・小中の連携を図りながら総合の時間の目標を立てることができる。（９年間でここまで育てたいという）＜１＞
・小中の協力	・児童会行事，全校行事等で協力し合える。＜６＞
・交流授業	・小中学生の交流授業（小６と中１） 美術・理科の授業で小６が中１と一緒になって授業を受けるＴＴの形をとりながら小中の先生方が連携して教える。＜１＞
・合同作業	・小中合同奉仕作業，小中合同での菊作り，陶芸教室，花壇づくり　＜１＞ ・ねぷた製作は，小さい頃からの経験を生かし，上の学年が下の学年に技を継承して行っている。中学校になった頃は，一人前となり大きな力となっている。＜１＞
・地域との連携	・地域の協力を得ながら「神楽」に取り組んでいる。下学年は上学年の良いところを真似することが多く、上学年は下学年の面倒をみている。＜１＞
・縦割り活動	・中学校をリーダーとした縦割り活動，児童生徒会活動を中心として，子ども達の企画力や運営力，表現力や社会性の向上を目指した取り組みを行っている。＜１＞

＜苦労した点＞	
・学習の定着	・小中併置のために、小学校からいうと卒業した子どもたち（習熟度・定着度）が気になる。＜１＞
・小学校のリーダー性	・小学校は，中学校がいるので小６がリーダーシップをとったり，代表として活躍する場が他の学校より少ない。＜４＞
・日程の変更	・行事の日程が変更しにくい。＜１＞
・ねらいのちがい	・学校行事では，小中でのねらいのちがいから共に活動するのが大変。＜１＞
・校内研修	・校内研修があまりうまくいかない。＜１＞

＜　　＞は記入数

表５より，よさを生かした点については，「９年間一貫した教育」ができるということや児童会行事・全校行事等で小中が協力できることなどが挙げられている。また，小学校と中学校の「交流授業」などを行っている学校もある。例えば，美術や理科の授業で小学校６年生が中学校１年生と一緒になって授業を受けるＴＴの形をとりながら小中の先生方が連携して教え合っている学校も見られる。「合同作業」では，小中合同で菊作りや花壇づくりを行っている学校もある。ねぷたの製作で，上学年が下学年に技を継承し，中学校になった頃は，一人前となり大きな力を持つようにしている学校もある。「地域との連携」では，地域の協力を得ながら「神楽」に取り組んでいるというところもある。「縦割り活動」では，中学校をリーダーとした縦割り活動や児童生徒会活動を行っている学校もある。

苦労している点では，「小学校のリーダー性」が挙げられる。中学生がリーダーとなることが多く，小学校６年生がリーダーシップをとったり，代表として活躍する場が小中併置校以外の学校より少ないことを挙げている学校が４校もあった。これは，小学校が中学校に依存したときの弊害の一つと思われる。また，「学習の定着」では，小中併置のため，すぐに成績がわかるので定着度が気になることを挙げているのも見られる。「日程の変更」では，小学校と中学校が一緒なので行事などの変更がしにくいという点も見られる。「校内研修」などでも，小学校と中学校との連携を十分に図っていかないと充実した研修ができないことも考えられる。

4 まとめと今後の課題

「総合的な学習の時間での取り組み内容」について，へき地・小規模校における小中併置校とそれ以外の学校では異なる点がいくつか認められた。「国際理解」や「地域・郷土」といったテーマでは，小中併置校の場合，地域の素材を生かしながら小学生と中学生がより緊密に連携をしていることがわかる。外国との国際交流，ねぷたやえんぶり・さづまなどを実施している学校でこうした特徴が認められた。また，総合的な学習の時間の全体計画を小中一緒に作成し実践している学校もあり，小中の連携が図られていることがわかる。「環境・自然」のテーマでも，菊作りに小中連携して合同で取り組んでいる学校もある。

しかし，小中併置校は総合的な学習の時間における一人一人の課題の持たせ方や授

業時間における見通しやねらいについて苦労していることがわかった。また，小中併置校には５級や４級などのへき地の級が高い所があり，総合的な学習の時間を行って行く場合に地理的な面でも厳しい様子がわかる。

こうした問題点を解決するための工夫として，小中併置校において，中学校とペアを組むことで，中学校の手を借りながら課題に取り組んでおり，中学生の指導力を生かして課題解決を行っていることがわかる。学校全体で取り組む課題を設定するなど，小中全体を考えて課題を設定していることがわかる。

また，「総合的な学習の時間以外の教科等の時間で苦労している点」では，小中併置校において，理科だけでなく国語、体育等の教科等においても苦労していることがわかる。これは，人数が少ないためにチームなどができにくいことなどが影響を与えている。

最後に，「小中併置校のよさを生かした取り組みや苦労している点」では，併置校において小学校と中学校の交流授業などを行い，９年間の一貫した教育を行っていて成果を上げていることがわかる。しかし一方で，中学校に依存するために小学校のリーダー性が育たない面がみられる。

今後の課題としては，小学校側のみならず中学校側からの総合的な学習の時間の教師の意識を調べることにより，小中併置校の様子を明確にすることやへき地・小規模校も含めて青森県全体の小中学校の総合的な学習の時間の取り組みの実態を調べる必要があるものと思われる。

＜引用文献＞

１）総合教育技術（２００５）義務教育に関する意識調査，小学館８月号，pp. 94-101.
２）渋川良夫（２００４）青森県中南地区の小学校教師を対象とした総合的な学習の時間の意識調査，弘前大学教育学部附属教育実践総合センター紀要，２号，pp. 67-68.
３）渋川良夫（２００５）へき地・複式校における教師を対象とした総合的な学習の時間の意識調査，弘前大学教育学部附属教育実践総合センター紀要，３号，pp. 53-61.

＜参考文献＞

１）全国へき地教育研究連盟（２００３）新しい時代を拓く心の教育シリーズⅠ，生きる力・確かな学力を育む教育の在り方, pp. 1-4.
２）全国へき地教育研究連盟（１９９５）これだけは知っておきたいへき地教育ガイドブック，pp. 113-120.
３）北海道へき地・複式教育研究連盟（２００１）北海道小学校基底教育課程, pp. 95-112.
４）南黒へき地・複式教育研究会（２００５）南黒へき地・複式教育研究会研究紀要，第２０号，pp. 53.
５）全国へき地教育研究連盟（１９９８）学習指導方法の工夫・改善，pp. 25-31.
６）教育出版社（２０００年）特色ある教育活動の展開のための実践事例集―「総合的な学習の時間」の学習活動の展開―（小学校編），pp. 40.

＜資料１＞

ア　ン　ケ　ー　ト　用　紙

学校名（　　）小学校

ご記入された方（○で囲んで下さい）

＜年　　代＞　２０代　　３０代　　４０代　　５０代

＜経　験　年　数＞　　年

＜へき地経験年数＞　　年

＜職　　名＞　　校長　　教頭　　教諭　　養護教諭　　その他

【質問項目】

1　あなたが、今年度担当した「総合的な学習の時間」の内容と日程について、ご記入下さい。（総合的な学習の時間に関する年間計画等の資料がありましたら、コピーを一部いただけましたら幸いです。）

2　あなたが今年度担当した「総合的な学習の時間」で、大変である（苦労している、悩んでいる）と感じたことについて、ご自由にお書き下さい。

3　「質問２」で回答いただいたことを解決するために、あなたが工夫されていること（あるいは実際に行われなかったが、そうしたらよいと思うようなこと）などがありましたら、ご自由にご記入下さい。

4　あなたが今年度担当した「総合的な学習の時間」以外の教科の時間で、大変である（苦労している、悩んでいる）と感じたことについて、ご記入下さい。

5　あなたの学校で小中併置校の良さを生かした、「総合的な学習の時間」やその他の教育活動などにおける取り組みがありましたらお書き下さい。また、小中併置校であるために苦労されていることがあればお書き下さい。